

## 神の救いの働き

### 【聖書】 列王記上 17章1～24節

ギレアドの住民である、ティシュベ人エリヤはアハブに言った。「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしが告げるまで、数年の間、露も降りず、雨も降らないであろう。」 主の言葉がエリヤに臨んだ。「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる。」 エリヤは主が言われたように直ちに行動し、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに行き、そこにとどまった。数羽の烏が彼に、朝、パンと肉を、また夕べにも、パンと肉を運んで来た。水はその川から飲んだ。しばらくたって、その川も涸れてしまった。雨がこの地方に降らなかったからである。

また主の言葉がエリヤに臨んだ。立ってシドンのサレプタに行き、そこに住め。わたしは一人のやもめに命じて、そこであなたを養わせる。」 彼は立ってサレプタに行った。町の入り口まで来ると、一人のやもめが薪を拾っていた。エリヤはやもめに声をかけ、「器に少々水を持って来て、わたしに飲ませてください」と言った。彼女が取りに行こうとすると、エリヤは声をかけ、「パンも一切れ、手に持って来てください」と言った。彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。わたしには焼いたパンなどありません。ただ壺の中に一握りの小麦粉と、瓶の中にわずかな油があるだけです。わたしは二本の薪を拾って帰り、わたしとわたしの息子の食べ物を作るところです。わたしたちは、それを食べてしまえば、あとは死ぬのを待つばかりです。」 エリヤは言った。「恐れてはならない。帰って、あなたの言ったとおりにしなさい。だが、まずそれでわたしのために小さいパン菓子を作って、わたしに持って来なさい。その後あなたとあなたの息子のために作りなさい。なぜならイスラエルの神、主はこう言われる。主が地の面に雨を降らせる日まで／壺の粉は尽きることなく／瓶の油はなくなる。」 やもめは行って、エリヤの言葉どおりにした。こうして彼女もエリヤも、彼女の家の者も、幾日も食べ物に事欠かなかった。主がエリヤによって告げられた御言葉のとおり、壺の粉は尽きることなく、瓶の油もなくならなかった。

その後、この家の女主人である彼女の息子が病気にかかった。病状は非常に重く、ついに息を引き取った。彼女はエリヤに言った。「神の人よ、あなたはわたしにどんなかわりがあるのでしょうか。あなたはわたしに罪を思い起こさせ、息子を死なせるために来られたのですか。」 エリヤは、「あなたの息子をよこしなさい」と言って、彼女のふところから息子を受け取り、自分のいる階上の部屋に抱いて行って寝台に寝かせた。彼は主に向かって祈った。「主よ、わが神よ、あなたは、わたしが身を寄せているこのやもめにさえ災いをもたらし、その息子の命をお取りになるのですか。」 彼は子供の上に三度身を重ねてから、また主に向かって祈った。「主よ、わが神よ、この子の命を元に返してください。」 主は、エリヤの声に耳を傾け、その子の命を元にお返しになった。子供は生き返った。エリヤは、その子を持って家の階上の部屋から降りて来て、母親に渡し、「見なさい。あなたの息子は生きています」と言った。女はエリヤに言った。「今わたしは分かりました。あなたはまことに神の人です。あなたの口にある主の言葉は真実です。」

### 【序】 飢饉に際して

8月に入りました。今月の聖書の学びは、旧約聖書の代表的預言者エリヤについてです。ダビデ、ソロモンと続いたイスラエル王国が南北に分裂しました。エリヤは、北王国第7代の王アハブ夫妻と対決した預言者です。紀元前9世紀の時代です。

アハブは、地中海沿岸の豊かな町シドン王の娘イゼベルを王妃に迎えました。彼女は都のサマリアに農業神バアルの神殿を建て、祭壇を築いて熱心にその信仰を広め始めました。夫のアハブも彼女に追従して、真の神ならざる神の礼拝に走ったので、主なる神は大飢饉という裁きを下そうとされました。しかしアハブのことです。悔い改めるどころか、そのような不吉な預言を語るエリヤを恐

れ憎んで、抹殺しようとするに違いありません。神は**王の怒り**からエリヤをお守りになりました。

## [1] 神の配慮

「ここを去り東に向い、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに**身を隠せ**。その川の水を飲むがよい。わたしは**鳥**に命じて、そこであなたを養わせる」。エリヤは**主が言われた**ように直ちに行動し、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに行って、身を隠しました。すると数羽の**鳥**が、朝に夕に彼に**パンと肉**を運んで来てくれました。

鳥は色が黒く大柄で、鳩や雀と比べれば可愛げがありません。ごみ箱の腐った肉を食い漁ります。先日の新聞に、東京都内のごみの清掃が進んだので、鳥が1/4に減ったと出ていました。旧約聖書でも**汚れた卑しい鳥**とされています(レビ記 11:15)。その鳥がくちばしにくわえて運んでくるパンや肉です。普通のユダヤ人だったら汚らわしいと、手を引っ込めたことでしょう。その鳥たちが朝に夕に**パンと肉**を運んできてくれたのです。そしてエリヤはそれを有難くいただいて、生き延びたのでした。

しかしやがて川の水も涸れてしまいました。すると神はエリヤに、ヨルダンの東の荒野から、西の地中海沿岸までイスラエルを横断して、**サレプタ**に身をひそめるように命じました。「わたしは一人の**やもめ**に命じて、そこであなたを養わせる」。エリヤがサレプタの町の入り口まで来ますと、一人の**やもめ**が薪を拾っていました。「器に少々**水**を持って来て、わたしに飲ませてください」。エリヤの求めに応じて彼女が水を取りに行こうとしたので、この女性だと悟ったエリヤは、更に頼みました。「**パン**も一切れ、手に持って来てください」。彼女は答えました。「わたしは**二本の薪**を拾って帰り、わたしとわたしの息子の食べ物を作るところです。**一握りの小麦粉**と **わずかな油**しかありません。それを食べてしまえば、あとは**死ぬのを待つ**ばかりです」。

しかしエリヤは彼女に言いました。「**恐れてはならない**。まずそれでわたしのために**小さいパン菓子**を作って、わたしに持って来なさい。その後であなたとあなたの息子のためのパンを作りなさい。なぜならイスラエルの神、主はこう言われる。主が地の面に雨を降らせる日まで、**壺の粉**は尽きることなく、**瓶の油**はなくなる」。やもめは、**エリヤの言葉どおり**にしました。偉いですね。すると彼女の家では小麦粉も油も尽きることがなくなり、**生き延びることができた**のでした。

## [2] 命の守り手

**エリヤ**は先ず、王の迫及の及ばない遠い東のはずれ、荒野の川のほとりに身を隠せと、主から命じられました。人も住めない所です。一体毎日どうやって食べていけるのか。**鳥によって養われる**—そんなことが毎日続くでしょうか。私たちだったら、出発をためらいます。しかしエリヤは**直ちに行動**したのでした。無鉄砲過ぎませんか？ でも神はお言葉通りちゃんと養ってくださいました。

飢饉が更に深刻になり、川の水も涸れてしまいました。すると神は、国の外に出てサレプタの町の**やもめの世話**になれと、エリヤにお命じになりました。夫を失い一人で幼児を抱えて生きていか

なければならない女性は、災害の苦しみを真っ先に受ける**社会的弱者の典型**です。食料不足が深刻になればなるほど、私たちは**力ある人、豊かな人**に助けを求めようとするのではないのでしょうか。

エリヤが出会った女性は、案の定一握りのパン粉とわずかな油しか持ち合わせていませんでした。最後のパンを焼いて息子と食べ、あとは死を待つばかりだったのです。「**恐れてはならない。まずそれでわたしのために小さいパン菓子**を作って、わたしに持って来なさい」。

せめて死ぬ前には**腹一杯**わが子に食べさせたいと思うのが**親心**です。私なら逆に、自分の方があちこち走りまわって、この親子のため、食べ物を集めようとするでしょう。ところがエリヤは、子どもへのパンをへずって、先ず自分に食べさせなさいと求めました。そしてこの母親も、**エリヤの言葉に従ったのです**。偉いですね。すると次の朝もその次の朝も、粉と油が備えられ、彼女の家はエリヤと共に大飢饉を生き延びることができたのでした。

私たちは、自分や家族の命が危うくなると、強い者、力ある者に助けてもらおうとします。だから国の安全のためにも、軍事同盟を結んだり、軍備の強化に走ります。しかし神は、エリヤの命を守るために、人々から疎んじられている**鳥**とか、社会的弱者の典型、幼児をかかえる**やもめ**をお用いになりました。常識では考えられない**神のなさりよう**です。そしてエリヤは「**神は、依り頼む者を必ず救ってくださる**」との信仰を固く持っていたのです。

だから彼は、人が誰も住んで居ないケリトの川のほとりに、**直ち**に出かけて行きました。そして神のお言葉通り、**鳥**によって毎日養われました。川が涸れると、イスラエルを横断して西のはずれサレプタの町へ行き、やもめの世話を受けよと、神から命じられました。サレプタの**やもめ**も絶望的な状況でした。しかしエリヤは**確信**して、「**恐れずに先ず私にパンを食べさせなさい**」と彼女に言えたのです。そして親子共々に、救っていただいたのでした。

去る7月26日の夜中に、相模原市の障害者施設「**津久井やまゆり園**」で26才の元職員が入居者を襲い、19人を死亡、26人を負傷させる事件が発生しました。「**障害者は生きていてもしょうがない**」と考えたからの犯行でした。この2月に、多数の障害者を殺害した**ヒトラーの思想**が彼の心に降りて来て、「**自分も殺そうと思う**」との言葉を吐いて緊急措置入院させられ、その後退職させられた人物です。

私が衝撃を受けたのは、「**障害者はいらない**」「**税金泥棒だ**」等の賛同する意見がネットに幾つも寄せられたという報道です。「**誰の心にも差別の心がひそんでいるという社会的病理があるのではないか**」「私も不意に襲われないかという恐れが生じて来た」という声も上がってきました。**学習塾**の競争が激しくなっています。学力の劣る子どもの劣等感が益々大きくなってきているからではないのでしょうか。女性の**美顔術・化粧品**のPRも熾烈です。ここでも美意識に促された差別の心が無意識に広がっているのではないのでしょうか。こうした**社会の病理現象**が、遂に障害者抹殺事件まで発生させたのではと、恐れます。

しかし今日の聖書は、神は汚れた鳥と卑しめられている鳥や、幼児を抱えて懸命に生きていこうとしているやもめという社会的弱者を用いて、エリヤを守らせたと語ります。神はどんなに卑しく見えても、或いは弱い存在でも、人の命を救う働きに用いて、皆で共に生きていくように導いておられると、語っているのです。

### [3] 自分では気づかない信仰

もう一つ、サレプタの貧しい母親から学ぶことがあります。彼女は我が子に与える最後のパンを減らして、初めて会ったばかりのユダヤ人エリヤに先ず小さなパンを焼いて与えました。それから自分たちのパンを焼きましたが、不思議にも、二人ともちゃんと食べられたのです。そして次の朝も、粉と油が昨日と同じに備えられているのを発見しました。そしてそれが毎朝毎朝の経験となりました。どんなに驚いたことでしょうか。この旅人をわが家に迎え入れたことは、神の大きな恵みでした。どんなに感謝したことでしょうか。

でも大事なわが子が病気にかかり、遂に死んでしまいました。どうしてこのような悲しい出来事が起こったのか。神の罰——自分の犯して来たこれまでの罪を思い起こすようになり、じっとして居られなくなったのでしょうか。エリヤに訴えました。「神の人よ、あなたはわたしにどんなかかわりがあるのでしょうか。あなたは息子を死なせて私に罪を思い起こさせるために来られたのですか」。エリヤとの出会いは災いだったと嘆いたのです。でも出会わなければ飢死にしていたのです。我が子を死なせて取り乱す母親の叫びですね。

エリヤはその子を抱いて自分の部屋に行き、懸命に祈りました。すると神はその祈りを聞いて下さいました。「見なさい。あなたの息子は生きている」「今わたしは分かりました。あなたはまことに神の人です。あなたの口にある主の言葉は真実です」。不思議ですね。エリヤと一緒に暮すようになって、パンの恵みを毎日経験しているのに、息子の命を死から甦らせてもらって、彼が神の人だと、今分かったと言っています。この言葉を皆さんはどう理解されますか？

彼女は見ず知らずの人エリヤの「恐れてはならない」という言葉に励まされて、彼に聞き従いました。我が子のための大切な粉と油を分け与えるという、普通の母親には出来ない決断が出来ました。これは優れた信仰の行為ではないでしょうか。だから神に用いられたのです。しかしここで私が注目するのは、その信仰を彼女自身が自覚していなかった点です。彼女は気付かないままに、エリヤを養い守り、自分たちも飢饉から救われていったのです。

「私は、皆さんのような信仰の無い者で」とか「私は、信仰の弱い者で」という言葉を教会で耳にしませんか。サレプタのやもめと同じではないでしょうか。彼女はユダヤ教徒ではなく異教徒です。でも「先ずわたしのために」というエリヤの言葉に従う心、それは立派な信仰です。ただその信仰を自覚していなかったのです。ですから私たちも、「信仰がない」とか「信仰が弱い」から、「神さまの役に立っていない」などと思ってはならないのではないのでしょうか。

## [結] 神の御心

神がお創りになったものには、何一つ無意味な存在はありません。神の心、愛が込められている**貴い存在**なのです。神は、烏や異教徒の貧しいやもめを、大事なエリヤの命を守る**貴い働き**にお用いになりました。同様にこの私もまた神は、誰かの命のために、用いてくださっているのです。

キリストは十字架の上で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫んで息を引き取られました。誰が見ても、この世の権力による**敗北の死**と思われました。しかし神の御心によれば**私たち全ての者の罪を贖うための救いの死**だったのです。ですから三日目に墓より復活して弟子たちの信仰を確立させ、50 日後に**聖霊**を豊かに注いで、弟子たちを**世界宣教**の送り出されたのでした。そして今、**私たちが存在しているのです。神の救いの業に用いられている私たちという自覚**を新たにして、生きて参りましょう。

祈ります:神さま、あなたは卑しい烏や貧しいやもめをお用いになり、エリヤの命をお守りになりました。あなたがお創りになったものに、何一つ無意味な存在はないことを、はっきりとお示し下さって感謝します。**自分の命の貴さを喜べる信仰**を、お与えください。この私も誰かの命のために、あなたがお用い下さって居ることを感謝して、あなたに聞き従って生きていけますようにお導きください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン